



余川中道遺跡調査範囲図

A・B区:平成15年度発掘調査済(赤色)
D～H区:平成21・25年度調査(黄色)
C・I・J区:平成26年度調査(水色)

2 古墳時代

マツリの跡

平成15年度の調査では、三種の神器である鏡・勾玉・剣を模した石製品（鏡形・勾玉形・剣形）が多数出土しました。周辺からは膨大な数の土器も出土しており、この地においてマツリが行われたと考えられます。その資料的重要性から、今年3月に県文化財に指定されました。今回の調査区は、それらが出土した調査区と隣接しますが、三種の神器がまとめて出土することはありませんでした。しかし、それぞれが単発的に出土しており、同じようなマツリが行われたと考えられます。



土器がまとめて出土したマツリの跡



鏡形

剣形

勾玉



三種の神器と勾玉の出土状況（メノウの勾玉の長さ：4cm）

鏡形・剣形・勾玉は、それぞれ異なる場所から出土したものです。鏡形・剣形は滑石という、とても軟らかい石で作られています。勾玉の材質は、左から凝灰岩、メノウ、そして右端は土製です。土製のものは、勾玉を模して作られたものであり、「勾玉形」というべきものです。メノウの勾玉は、出土した時が最も色鮮やかでした。